



将来、動物と触れ合う仕事に就きたい子どもたちもいるかな？ 仙台市八木山動物公園フジサキの杜（太白区）の飼育員山本渉さん（29）は、幼い頃から動物や昆虫が好きだったんだって。大きなイモムシを自宅で飼い、家族を困らせたこともあるそうだよ。

生き物の魅力 多くの人へ

山本 渉さん（29歳・仙台市八木山動物公園飼育員）

家族を困らせたのは、ガの一種のオオスカシバの幼虫を捕まえたときです。緑色の体をしたイモムシで、苦手な人もいます。私は好きで飼っていたのですが、母親は気持ち悪がって陰で泣いていたそうです。

大学と大学院では、体の基本的な構成単位となる細胞の話をはじめ、進化、遺伝など生き物について幅広く学びました。「ショウジョウバエ」という小さなハエの研究にも取り組み、羽に水玉模様ができるメカニズムを調べました。

飼育員になろうと思ったのは「世界中の貴重な動物が集まる動物園で働けたら幸せだろうな」と考えたからです。実際に働くとは体力仕事も多いのですが、飼育員ならではの面白さ、やりがいがたくさん感じています。

チンパンジーに頭や口、おなかを見せてもらう健康管理の仕事では、最初は言うことを聞いてくれなくて苦労しました。指示を出しても大声を上げ、こっちの反応をうかがっているようでした。知能が高い動物なので、からかっていたのかかもしれません。

でも毎日繰り返すと、スムーズにできるようになりました。餌を与えているのがありますが、ある程度の信頼関係を築けたからこそ、意思疎通が図れるようになったのだと思います。

夜間開園などのイベントも、やりがいのある仕事です。餌やりやガイドの仕方を工夫して準備するのですが、お客さんが喜んでくれると、やって良かったという充実感があります。

これからもイベントなどを通じて、動物の魅力を多くの人に伝えていきたいです。



サル山の前で飼育員の仕事について語る山本さん

10月10日、仙台市太白区の八木山動物公園

やまもと・わたる 1996年生まれ。秋田県横手市出身。北海道大大学院修士課程修了。秋田市役所勤務を経て昨年4月から八木山動物公園で勤務。

子どもたちの学力向上に！

河北新報の

出前授業

活用しませんか

教育に新聞を活用するNIE活動に取り組む学校が、年々増えています。新聞は子どもたちの学力向上、読解力アップにつながります。河北新報社は、新聞活用を後押しするため、社員による出前授業を行っています。



出前授業 主なメニュー

新聞の読み方（小学生高学年以上）
楽しく実践
新聞を5分で読む方法、インターネットとの違いなどを説明。新聞を読み比べ、多様な考えがあることも学べます。

文章の書き方（中学生以上）
楽しく実践
新聞記事は分かりやすい文章のお手本。記事の書き方の基本を学ぶことは、伝わりやすいレポートやビジネス文書作成に役立ちます。

まわしよみ新聞（全世代向け）
楽しく実践
気になった記事を切り抜いて紙に貼り、選んだ理由を発表します。多様な視点や考えがあることを学べます。

報道写真の役割（全世代向け）
震災学ぼう
写真専門記者が震災現場などの写真を素材に、報道写真の役割を説明。効果的な写真の撮り方も学べます。

新聞の作り方（小学生高学年以上）
楽しく実践
修学旅行新聞や学級新聞の作り方を説明。取材方法、記事の書き方、効果的なレイアウトを紹介しします。

防災ノウハウ（全世代向け）
震災学ぼう
地域巡回防災ワークショップ「むすび塾」担当記者が、地域の防災力を高めるノウハウを紹介しします。

※上記は出前授業の一例です。内容はご相談ください。

河北新報 出前授業

検索

お問い合わせ先：河北新報社 防災・教育室

TEL:022-211-1309 FAX:022-211-1339
E-mail:kyopro@po.kahoku.co.jp

出前授業メニュー一覧はwebでご覧いただけます

